

令和3年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

学校整理番号	49
学校名	八戸水産 高等学校
全日制の課程	本校 校舎
自己評価実施日	令和4年2月8日(火)
学校関係者評価実施日	令和4年2月14日(月)

(1) 学校教育目標	教育基本法に則り、豊かな人間性と人格の形成を図り、有為な社会人、明るくたくましい水産人を育成する。
(2) 現状と課題	県内唯一の水産高校として本県はもとより日本の水産後継者の育成をしている。水産業界の発展に寄与できるような若手の育成が課題である。
(3) 重点目標	1 学力の充実 2 生徒指導の充実 3 進路指導の充実 4 保護者・地域等との連携の充実 5 強固なチーム八水の確立
(4) 結果の公表	自己評価ならびに外部アンケートの結果も合わせて、本校ホームページ上で公表する。

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 4名、PTA役員 1名、本校同窓生 2名 計 7名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	① 基礎基本の徹底 ② 教科「水産」への引き込み ③ 普通教科のプライド ④ 教員の教科力への自信	①学習状況の評価結果に基づく授業改善と主体的・対話的な授業及びICTを活用した授業の実践。学習到達度に留意した個別指導の実践。 ②普通科目、専門科目別の研究授業を行い、お互いの目標や手法を共有する。 ③専門教科と連携をとり、年間学習指導計画を見直すことで、横断的かつ魅力ある授業の実践。 ④「指導等評価の一体化」のためのPDCAの実践。	①主体的・対話的な授業及びICTを活用した授業実践に努め、学年末では各クラスの評点平均が70点を上回った。 ②全教職員が年1回研究授業を行い、授業改善に努めた。 ③一部生徒が授業に集中できない場面があったが、普通教科と専門教科で連携をとり、魅力ある授業を行うことで生徒の理解を深めた。 ④授業アンケートを各学期に行うことで、授業の改善・定期考査問題の改善に努めた。また、多くの生徒が職業資格を取得し、マリンマイスターの認定を得た。	A	・授業アンケートでは、各項目が概ね3.5を上回っており、授業が適切かつ効果的に実施されているようである。一方、予習・復習に関しては他に比べて低い傾向にあり、特に水産食品科が顕著である。自宅学習の継続的な改善や働きかけが必要であると感じる。保護者アンケートでも家庭学習に対する項目が低値となっており、家庭学習が足りていないと判断していると思われる。	・ICTを活用した授業及び観点別評価基準の作成・見直し。 ・4年制大学への進学希望者に対する進路指導体制を強化する。 ・先進的な取り組みについて、学校訪問や研修を通じて見識を深め、全職員の授業力向上に努める。 ・専門教科の課題研究や総合実習の研究授業を実施し、教科「水産」への引き込みの強化を図る。 ・普通科および専門科の横の繋がりを強化して、関連した授業を行うとともに、年間学習指導計画の見直しを図る。
2	① 挨拶、服装頭髪等基本的規範意識の高揚 ② いじめの根絶 ③ 危機管理マニュアルの徹底見直し	①1月1日の全職員による朝の登校指導及び服装容儀指導の実施。 ②複数教員による学級経営、生徒面談の実施、保護者との連携。情報化社会の知識と理解を深め、SNS等の適切な利用方法の指導強化。 ③各種訓練の実施による意識の維持高揚。	①年間計画通りに指導した。場面指導の強化と、継続的で統一された指導方針により生徒の意識を高めることに努めた。 ②いじめの根絶に向けた体制をとったが、SNSによるいじめが発生しその対応を継続している。 ③年3回の防災訓練に加えて、各学校施設からの避難訓練を実施し意識の維持高揚を図った。	B	・問題行動が増えているのは、コロナ禍の影響でストレスがたまっていることもあると思うが、家庭でも生徒指導面において隠さず前向きに対応する必要がある。	・SNSの取り扱いについての説明会は継続して実施する。家庭における親と子供との会話・関係改善についても、保護者の意識を高める。 ・情報モラル教育についての研修会を設ける。 ・防災訓練の効果をより一層高めるために予告無し訓練を実施する。 ・クラスや学年毎の指導に差が出ないよう共通理解を持った指導を行う。
3	① 企業、大学等との絆 ② 新規開拓への意欲 ③ 生徒の夢の実現 ④ 面談を通し、生徒、保護者の心情の理解 ⑤ 将来の八戸水産高校を背負う人材の育成	①企業、大学等との積極的な情報交換及び共通理解。 ②県内外の企業に向けた、教育活動のPR及び求人依頼。 ③早期の進路実現に向けて、生徒の適性と実態把握及び資格取得推進。 ④四者面談の実施。 ⑤水産系4年制大学への進学促進。	①②リモートなどによる積極的な情報収集と共有を全職員で取り組んだ。 ③就職、進学ともに全員が進路を決定し、新規の養殖・栽培関連企業が増えた。 また多数の上級資格を取得した。 ④各学科三者または四者面談を実施し、保護者と連携した指導を行った。 ⑤スタディサプリを朝学習のみならず、様々な場面で活用し、生徒一人一人の教科指導や進路指導に役立った。	A	・地域との関わりを深めるため、水産や海洋に関する各種イベントへの積極的参加が求められている。	・「あおもりっ子キャリアパスポート」の活用について協議し、全職員で取り組む必要がある。 ・4年制大学、公務員試験に向けて情報収集も含め、早期からの進路指導体制を強化する。 ・県内大学進学に対して、マリンマイスター取得の利点を示し、さらに啓発を進める。 ・後援会や同窓会を通して企業との連携を密にする。 ・漁船および商船企業主催の説明会やイベントに積極的に参加する。
4	① 地域との交流、人材の活用 ② 外部団体との相互理解と密な連携 ③ 学校情報の誠実な発信	①地域イベントやボランティアへの積極的な参加、生徒研究活動の地域展開の模索。 ②進路指導部、渉外部の各種会合への参加。 ③各分掌の通信の発信、学校HPの積極的な活用。	①階上町と官学連携を締結し、町の魚「アブラメ」のブランド化に取り組んだ。また、八戸高等支援学校に出向いて出前授業を実施した。 ②コロナ禍ではあるが、各種会合に教職員が多数参加し企業の方達との情報交換を実施した。 ③市内の全中学校及び県内、岩手県北の中学校訪問を実施し、各学科紹介のチラシ作成・配布した。また、学校HPの更新もその都度行った。	A	・地域連携は学校を挙げて取り組んでいることがわかる。 ・アンケートの回収率を上げるため、実施方法を検討した方がよい。 ・小・中学校の子供達に興味を持ってもらえるよう、PRの工夫して欲しい。	・コロナ禍ではあるが、ホームページや八水だより、広報誌、学年通信等で出来る限り情報発信に努める。また、来年度はできる限りイベントへの参加を目指す。 ・学食の保護者利用等、より一層、開かれた学校を目指す。 ・渉外部の各行事に対して、案内状況や実施報告の情報を発信し参加者を増やす。
5	① 寛容で誠意ある相互理解と相互信頼 ② 普通科教員の水産全体への積極的な関わり ③ サンフェアに向けた取り組み ④ 学年、分掌、教科等の小チームの結束	①報告・連絡・相談・記録の徹底、挨拶の励行、ハラスメントのない働きやすい職場作りの推進。 ②水産関連事業への指導的関与、教科「水産」の研究授業、教科横断的な組織編成。 ③学科間・普通科の協力。 ④各分掌との共通理解と定期的な情報交換。	①・④各分掌における報告・連絡・相談は継続して奨励され、教職員間の協力・連携は良くなっている。 ②総合的な探究の時間では、普通教科と専門教科が連携して取り組んだ。 ③本校から2名の実行委員会を選出し、他校の実行委員とともに大会準備を進めることできた。また今年度の主催県との交流会にも参加した。	A	・生徒の唯一の楽しみであるハワイ上陸がコロナウイルスの影響で出来なくなった。ハワイが無理であるのであれば、小笠原諸島または何処かの島などへの上陸を検討してはどうか。	・八戸の水産業に貢献できる活動を推進する。 ・新商品の開発に挑戦する。 ・普通科教員が各学科の実習に積極的に参加する。 ・お互いに仕事内容を理解し協力する気持ちと余裕が必要である。 ・来年度のサンフェア開催に向けた企画運営。

(11) 総括	主体的・対話的な授業改善、課題研究の充実及び地域に根ざした本校独自の特色ある教育活動を実践できた。生徒自ら課題を発見して解決に結び付ける取組や官学連携、関係機関との連携を通じた取組が生徒の自信や誇りにつながる教育活動を展開していく。
---------	--